

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600096		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム武蔵ヶ丘 光ユニット		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北1丁目8-1		
自己評価作成日	令和6年3月19日	評価結果市町村受理日	令和6年5月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは、安心・安全をテーマに、ほっとできる心地よい空間づくりを目指します。」「人生の大先輩である年長者を敬い、お一人お一人の尊厳を大切にします。」「自由で自分らしくいられる、否定しない介護を目指します。」を念頭にご利用者が家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して、毎日笑顔や笑い声が絶えず元気に暮らせるように職員一人一人が意識を持ちながらケアを心掛けています。コロナ5類移行後、面会や外出など感染対策をしながら緩和を行ってはいますがまだまだご家族には不自由な思いをおかけしているような状況ではありません。運営推進会議も対面での開催再開し、貴重なご意見を頂いております。ブログや定期新聞、ご家族宛の定期的なお手紙に関しては、表情や日頃の様子が変わりやすいように努めています。今年は、開設10年目になります。ご家族との交流の場、地域との繋がりを大切にし信頼して頂ける施設作りに努めて行きたいです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年の中で重度化傾向や若年性から97歳年代の幅という課題もあるが、管理者を中心として理念に即したケアの実践に入居者と積極的に関わり、笑顔を持って温かく寄り添い、意思疎通が難しくてもなにかのシグナルがあるとして傾聴しながら思いを引き出すとともに、あるがままを受け入れている。外出も少しずつ緩和され家族との外出等ができていくが、母の日のネイルサロンの開催、夏のかき氷パーティーやスイカ割り、玄関周りの草花の水やりや餅つき大会等役割のある生活や楽しみ事を企画し、ブログや新聞に載せた発信により家族との情報共有化としている。運営推進会議でホームの体制や入居者状況、ヒヤリハットから事故等報告する等透明性のある運営体制である事が表われている。絵馬には“健康に 笑顔で 元気で 自分のことは自分で”等入居者個々の1年の思いが込められ、笑顔で心地よい生活の実現に心一つにしてケアに邁進するホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安全で心地よい時間の提供」「ご利用者の人格尊重」「自由で自分らしくいられる介護の追及」の理念を持って毎朝、朝礼時には御社の経営理念を唱和し全職員理念の共有に努めている。	法人の経営理念及びホームの理念を唱和すると共に、職員はまずは入居者一人ひとりへの挨拶からケアをスタートさせている。入居者の穏やかな生活ぶりに心地よい時間の提供として表われ、自分らしくいられる介護について多忙になると疎かになる部分でもあるとしているが、開設して10年の経年により入居者と職員との馴染みの関係の中での生活ができており、長い入居歴に職員のケア姿勢が表われている。リスク委員会(事故やヒヤリハットの検討等)に“安心・安全…とする理念を想起した話し合いであることが表われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策を行い、餅つきではボランティアで地域の民生委員の方々がお手伝いに来ていただいたり、対面での運営推進会議の開催も行っている。定期的な地区の除草作業も参加している。	地域の中にあるホームとして自治会に加入し回覧板の受渡しや公園の除草活動に参加し、年末の餅つきにはボランティアとして民生委員の協力も得ている。中学生の職場体験を受け入れたが生徒の都合により中止となっている。	入居者も感染症が5類となり、外に出るような機会を設けたいとしている。家族から散歩や外出はどうでしょうかといった問い合わせもあり、家族との散歩により地域に出る事等検討いただき、入居者の地域での生活が更に拡充されることと期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	5類に移行したが地域の方々を招いて敬老会等を開催や地域の催事やふれあいサロンなどに出向きご利用者との交流を図ることは実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面式での会議開催できている。ご家族、地域や行政の方々との情報交換に努めている。	区長や組長、民生委員・行政や地域包括支援センター、社協、調剤薬局、家族は輪番での参加として、対面で開催、昨年度の評価結果や事故やヒヤリハット等を課題として意見交換を行っている。行政から介護に当る人材確保の為として介護事業所の状況等について意見を交わし、地域包括支援センターからは待機者や社協からは外国人のかたの入職予定に、社協の取り組みの発信や、地区の防災訓練(地区との協力体制)等双方向の有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当の方々とはその都度訪問し何かあった場合は相談、ご助言をいただいている。運営推進会議を通して現状を伝えている。福祉事務所等の協力体制を図りスムーズな生活保護受給申請へ繋げている。	管理者は事故などの報告書を提出に出向きながら、相談したり助言等を得ている。介護認定更新を代行に訪問しながら情報交換を行い。訪問調査時に立ち会い情報を発信している。生活保護等の面からも福祉事務所と連携を図り、地域包括支援センターからの空床の問い合わせやサロンへの声かけ等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に全職員が身体拘束について意識しながら業務にあたっている。身体拘束についての研修会も実施している。	身体拘束適正化委員会で研修会の開催とともに、不適切ケアチェックリストにより状況を把握している。スピーチロック、指示等の言葉による行動制限について日頃のやり取りを検討し常に職員が意識して声を掛けることを申し合わせる等職員全員で議論を重ね共有することが重要であるとしている。身体拘束及び虐待は行わない事業所であることを明示し身体拘束廃止宣言を掲げている。	若年性がために身体的な問題も無く自由な生活であり、離設への問題として施錠について議論を重ね、見守りの徹底や業務体制を見直している。運営推進会議でも課題として挙げられており、今後も、所在確認の徹底を継続いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を実施すると共に職員のストレスケアに努めて、日頃のケアについて振り返る機会を設けている。職員のストレスケアを通してより良いケアの提供を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス等については本部から職員会議に出席出来る際は、職員へ随時説明と理解を図る場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に疑問点を聞きやすいよう時間をかけ説明している。また、改定時も書類を使い分かりやすいよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	残念ながら家族会が開催できていない。面会の緩和で対面で話す機会が増え担当者会議等でご意見をいただいている。2か月/1回担当者より様子を記入した「ご家族への手紙」を継続送付している。	家族の面会時や担当者会議の中で意見や要望を聞き取っており、外出等の希望が出されている。また、運営推進会議もまた家族の気持ち等を知る事が出来る場としている。家族へは手紙やブログを通して家族にホーム生活を開示し安心して貰うよう継続して情報発信している。	家族と交流する機会を作りながら、家族会へと繋げられると良いと思われる。運営推進会議に参加される家族と時期等についての意見交換をされる事が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話しやすい環境づくりに努め、それぞれの意見や話が聞けるよう取り組んでいる	日々の申し送りや職員会議を通して職員の意見や要望等を聞き取る他、管理者はケアの中で職員とのコミュニケーションを図る等気になる事案についてはその都度話し合う等職員が意見等を出す機会も多く、勤務体制や業務内容等を検討する等風通しの良い関係が築かれている。ホームのスローガンも職員との話し合いにより決める等合議制としている。法人として運営会議による話し合い等も行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月職員会議に本部から社長が参加され、ホームの現状把握に努められている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では年間スケジュールに沿って研修を行っている。施設外の研修はなかなか参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病院等の訪問も緩和され対面での情報交換が行えるようにはなっている。役場等へも出向きアドバイスを受け施設の資質向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し、入居初期は、こまめに声掛けを行い、また統一したケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、訪問でご家族、ご本人様と会い状況把握やケアへの意向などを確認する。職員に対しては情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに朝礼等の時間を利用してカンファレンスを行い必要な支援を職員で話し合い情報共有、統一したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が出勤時には、ご利用者お一人お一人にあいさつをして1日の始まりの関係作りに心掛けている。ご利用者様の想いや考えを尊重し、出来ることはしていただいている。家庭的な環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人様が面会緩和で顔を合わせる機会、一緒に過ごせる時間を増やしながらかご家族の思いを受け止めともに本人様を支えていくという思いを大切に支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症状況をみながら、面会緩和で別室ではあるが対面での面会対応している。外出も多少の制限を設けてはいるがドライブや外食、お墓参りなど対応している。	入居者がこれまで培ってきた場所等生活歴から把握している。家族中心ではあるが遠方の家族や親類等が訪問されている。家族とのドライブや墓参、外食等家族の協力を得て支援している。七夕短冊には“長生きしますように”と熱い思いを込めた書かれた99歳、正月には絵馬に1年の思いをしたため、餅つきでは入居者の力が発揮される等社会性・慣習等も視野に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を見極めテーブル席の配置を考慮している。トラブル等が発生した場合は間に入り孤立しない等に支援している。居室で過ごされるの好きな方は、見守りや声掛けを定期的に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は、状況を把握し、ご家族への電話等で連携を取っている。状況については、その都度職員には報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、その人の話されたことを記録に残し状況把握に努め、日々生活環境の改善に取り組んでいる。	職員は入居者の同じ会話の繰り返しでも聴くという姿勢で対応し、発語が難しい方には職員が隣にいても安心した表情に変わり、何かの訴えがあるとして表情や仕草等から推察している。意思疎通困難でも傾聴することで何かしらの意向等を把握しケアに反映させるとしている。入居者の「ちょっと帰ろうと思うけど」を希望として記録し、感染状況によりホームと自宅の行き来はできると捉え、職員の付添いで希望を叶える等本人の思いに寄り添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネージャー、利用されていたサービス事業所等関係機関から情報収集し、本人様の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様のこれまでの生活や嗜好等の情報収集し個人を尊重しその人にあったケアや趣味の提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様ごとに担当職員がおり、何か気づいたときはユニット間や全体で話し合い、状況に応じて専門機関に相談し、その都度対応している。ご家族様へは面会時や電話、お手紙で相談、報告をしている。	本人や家族の言葉等をそのまま記し、職員が傾聴して把握した事案や言動を支援経過に残し、プラン見直しに反映させている。短期目標事にはアレンスを行い、プラン見直し時にはアセスメントから取る直し、現状に即した個別的なプランを作成している。職員の気づきや入居者との会話等で把握した意向等もプラン作成に生かし、職員に新たなプランを回覧することで共有化とし、日々のケアに直結させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の経過記録等を通じ経過観察することで心身の管理や変化に気づく事が出来る。介護・看護連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対してその都度対応している。面会緩和にて外食やドライブなどご家族との時間を設けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のボランティアの方々にお声かけはいただいております。感染症対策を講じた上で、今後施設の行事等でお世話になりたい。感染症対策を講じた上で、外部との交流の場を増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より健康管理については、2週間/1回の訪問診療で対応しご家族へ報告している。主治医と連携し、必要時専門医への医療が受けられるように支援している。主治医の看取りケアへの理解や緊急時の対応など理解を得て協力を頂いている。	全入居者が協力医療機関をかかりつけ医として各ユニット毎に2週間置きの訪問診療としている。薬剤師も訪問診療に同行されており、与薬の相談やドラッグロックとして転倒に繋がる頃もあり得るとしての相談している。専門の医療機関への受診には主治医の紹介状のもと職員が付添い、現地で家族と待ち合わせる場合もある。受診結果は家族に報告し情報を共有している。歯科も訪問にて対応し、医療ノートを活用し個々の状況把握と共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴介助や日常生活の中で、ご利用者様の身体的状態を観察し、きずき、ご利用者様からの訴えを看護師へ伝えたり医療ノートを作成し個々の利用者様への適切な対応、受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になってからの医療機関との連携はとれている。ホームでの生活状況を伝え、入院中も医療機関とのやりとりを努め、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームにおける医療面で出来ること、できないことの説明をしている。重度化した場合や看取りになった場合の説明もしている。	入居時に重度化及び終末期指針をもとにホームの方針を説明している。最期までホームでの生活を希望される家族もおられるが、何かあれば医療機関への救急搬送を希望される方等家族の意向に寄り添い支援している。現在も看取りケアに取り組み、訪問看護(週3回)と、点滴や高カロリー食品を取り入れ、看取り用プランを作成し、食事時には入居者の中で過してもらい、体調の状況を見ながら居室での生活を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に研修会を通して初期対応の訓練や急変時の対応を全職員が学ぶ機会を設けて実践に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災を想定した避難訓練の実施。消防器機点検を業者に依頼し何ときでも使用可能な状態にしている。災害発生時に備え食材は常に備蓄している状態である。	年2回火災を想定した通報・避難訓練を実施し、入居者も玄関口まで避難を体験している。訓練には防災業者が立ち会い、設備の安全点検を行っている。ホームでもシーツ交換時や掃除の際に普段隠れているコンセント周りや室内の点検を行っている。BCPは研修後、法人全体で策定している。	管理者は防災訓練について地域との協力体制の重要性を語っており、運営推進会議を活用した話し合いに期待したい。また、今後はBCPをもとに自然災害について机上訓練などにより更なる防災意識の向上に期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に敬意をもって接しているが、プライバシーや言葉かけで慣れが出ている時もある。	職員はプライバシーの研修で、入居者への対応や等について学びを深めているが、生活を共にする中でどうしても馴れ合いになりがちとして言葉遣いには十分注意し、勤務中の職員同士の声の掛け合いを大事にしている。入居者への呼称は苗字を中心に名前でも対応しているが、名前の方が喜ばれるとのことである。入浴時の同姓介助については、プライバシーの観点からばかりではなく、体力面などで男性入居者へ男性職員が対応することとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がしたいことを確認しながら決めて頂いている。着替えの衣類等もできるだけお聞きしながら選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはあるが、毎月の職員会議やカンファレンスで情報共有しその人のその日の状態、状況に合わせて過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容をはじめ、季節に合わせた服やご本人様の好みや考えを確認しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段のお食事、行事時のお食事職員手作りで提供している。行事食には季節感を表し職員も一緒に食事をしている。お手伝いは片付けのお盆拭きをお願いしている。	専任の調理担当者を中心に手作りの食事を提供している。行事食や誕生日の食事の他、季節毎におやつも工夫して提供している。開設から10年、入居者が食に関わることは少なくなってきたが、お盆拭き等出来ることで関わってもらっている。常食やきざみ、ペースト等嚥下状態に応じて準備し、介助が必要な方へは職員が料理名を告げながら支援に当たっている。行事食などは広報誌に載せ家族へ発信している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分にトロミをつける等その人に合わせている。毎食の食事量の把握し状態変化に気づけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導もありながらお一人お一人に合った口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘の予防に個々にヤクルトやヨーグルト、牛乳など乳製品を食事以外に取って頂いたりしている方もいる。ご本人様の排泄パターンを把握し、声かけをしている。その人にあつた排泄援助に努めている。	職員は入居者個々の排泄チェックによりトイレへの声掛けや誘導を行い、日中はトイレでの排泄を基本として支援している。必要な排泄用品を尿量や時間帯に応じて尿取りパット等を使い分け、夜間はトイレへの誘導やポータブルトイレを使用される等状況により支援している。排便コントロールが難しく薬に頼る事も有るが、ヨーグルトや牛乳等乳製品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、個々に応じて毎朝麦茶や牛乳、ヤクルト、ヨーグルトを摂って頂いている。また体操をうながしたり腹部マッサージなど適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は設定しているが、機械浴を導入しすべての方に入浴を楽しむことができるよう支援している。ゆず湯等季節湯を実施している。	入浴回数や時間帯は一応は決めているが、入居者にゆっくりと入ってもらい、身体状況によっては機械浴で対応する他、体調次第での入浴や清拭としている。全床暖房であり、浴室のヒートショックにも対応できている。職員は節句に合わせて菖蒲湯、冬至には柚湯を準備し、1対1での会話を楽しむ入浴時間としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう気をつけているが昼間休息するなど、ご本人様の状況に合わせて対応している。寒冷時は全室床暖房使用し室温調整用い呼吸器系疾患のある方などは加湿器使用して加湿に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時はダブルチェックを行い服薬ミスがないよう注意を払っている。薬の効能や副作用については薬局からの情報で確認し個人ファイルで管理している。御家族へ服薬指導報告書をお渡ししている。薬局の先生との情報交換を密に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況に合わせて洗濯物たたみや塗り絵、折り紙、カラオケ等楽しんで頂けることを取り入れながらし生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策もあり外出する機会は減った。感染状況を見ながらではあるが他科受診の際にご自宅を気にされているご利用者をご自宅までドライブがてら外出も行った。	管理者は思うようには外出ができなかったとしているが、受診の際の寄り道や行事を企画し外出に代わる活動で入居者に喜んでもらうとしている。母の日のネイルサロンの開催、夏のかき氷パーティーやスイカ割り、玄関周りの草花の水やりや餅つき大会等多くの楽しみ事を用意している。記録の中に入居者と職員との笑顔溢れる日常を垣間見ることができる。	入居者の中には帰りたいや食べに出かけたい等口にされるようであり、家族との外出等家族の協力が得られており、更に家族の協力を得ながら自宅への帰省が叶うよう、家族との話し合う機会を作られることより、外に出る機会が多くなることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルが無いようご利用者の預り金はホームで管理しているが、ご家族様の同意のもと個人でお金を持たれる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会緩和で別室での対面面会を行っている。ご利用者の希望によりご家族への電話や手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは掲示板等、四季折々の模様替えを行い季節を感じていただいている。また、お花を飾ることでご利用者様たちの笑顔がよく見られている。安全に生活していただけるよう環境整備にも心がけている。	玄関やリビングには、季節毎に花を飾り入居者や来訪者への楽しみに繋げている。ひな壇飾りの毛氈のゆがみを直そうと尻餅をつかれるなど思わぬアクシデントを教訓に雛人形だけを平置きにする等入居者の動きを想像しながら物品を配置している。テーブル席は、行事に合わせて変えているが、普段は入居者の相性や身体的な状況等を考慮したレイアウトとし、職員は掃除や感染防止対策を徹底し、心地よい住環境としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルやリビング、ソファ等相性を考慮しテレビ鑑賞や会話等、気の合った仲間を楽しめるよう努めている。また思い思いの場所で過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には家族との写真や創作作品を飾っている。また居室内は、家具の配置を考慮し、ご本人様の馴染みのあるものを飾り安全対策もしながら落ち着ける空間作りに努めている。	入居時に持込みの品について説明しているが、備え付けのダンスに入り程度の衣類の持込みを依頼し、ハンガーラックについては手すり代わりにされた際に危険であることから家族に持ち帰りをお願いしている。居室にはテレビや入居者自身の作品や誕生会の色紙等を掲示し、いすなどが持ち込まれており、特に車いすや歩行器利用者には動線に合わせてレイアウトしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の安全を確保しながら、本人様の得意なこと出来る部分を活かしたケアに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600096		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム武蔵ヶ丘 虹ユニット		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北1丁目8-1		
自己評価作成日	令和6年3月19日	評価結果市町村受理日	令和6年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは、安心・安全をテーマに、ほっとできる心地よい空間づくりを目指します。」「人生の大先輩である年長者を敬い、お一人お一人の尊厳を大切にします。」「自由で自分らしくいられる、否定しない介護を目指します。」を念頭にご利用者様が家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して、毎日笑顔や笑い声が絶えず元気に暮らせるように職員一人一人が意識を持ちながらケアを心掛けています。コロナ5類移行後、面会や外出など感染対策をしながら緩和を行ってはいませんがまだまだご家族には不自由な思いをおかけしているような状況ではあります。運営推進会議も対面での開催再開し、貴重なご意見を頂いております。ブログや定期新聞、ご家族宛の定期的なお手紙に関しては、表情や日頃の様子がわかりやすいように努めています。今年、開設10年目になります。ご家族との交流の場、地域との繋がりを大切に信頼して頂ける施設作りに努めて行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安全で心地よい時間の提供」「ご利用者の人格尊重」「自由で自分らしくいられる介護の追及」の理念を持って毎朝、朝礼時には御社の経営理念を唱和し全職員理念の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策を行い、餅つきではボランティアで地域の民生委員の方々がお手伝いに来ていただいたり、対面での運営推進会議の開催も行っている。定期的な地区の除草作業も参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	5類に移行したが地域の方々を招いて敬老会等を開催や地域の催事やふれあいサロンなどに出向きご利用者との交流を図ることは実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面式での会議開催できている。ご家族、地域や行政の方々との情報交換に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の担当の方々とはその都度訪問し何かあった場合は相談、ご助言をいただいている。運営推進会議を通して現状を伝えている。福祉事務所等の協力体制を図りスムーズな生活保護受給申請へ繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に全職員が身体拘束について意識しながら業務にあたっている。身体拘束についての研修会も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を実施すると共に職員のストレスケアに努めて、日頃のケアについて振り返る機会を設けている。職員のストレスケアを通してより良いケアの提供を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス等については本部から職員会議に出席出来る際は、職員へ随時説明と理解を図る場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に疑問点を聞きやすいよう時間をかけ説明している。また、改定時も書類を使い分かりやすいよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	残念ながら家族会が開催できていない。面会の緩和で対面で話す機会が増え担当者会議等でご意見をいただいている。2か月/1回担当者よりご様子を記入した「ご家族への手紙」を継続送付している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話しやすい環境づくりに努め、それぞれの意見や話が聞けるよう取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月職員会議に本部から社長が参加され、ホームの現状把握に努められている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では年間スケジュールに沿って研修を行っている。施設外の研修はなかなか参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病院等の訪問も緩和され対面での情報交換が行えるようになってきている。役場等へも出向きアドバイスを受け施設の資質向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し、入居初期は、こまめに声掛けを行い、また統一したケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、訪問でご家族、ご本人様と会い状況把握やケアへの意向などを確認する。職員に対しては情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに朝礼等の時間を利用しながらカンファレンスを行い必要な支援を職員で話し合い情報共有、統一したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が出勤時には、ご利用者お一人お一人にあいさつをして1日の始まりの関係作りに心掛けている。ご利用者様の想いや考えを尊重し、出来ることはしていただいている。家庭的な環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人様が面会緩和で顔を合わせる機会、一緒に過ごせる時間を増やしながらかご家族の思いを受け止めともに本人様を支えていくという思いを大切に支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	感染症状況をみながら、面会緩和で別室ではあるが対面での面会対応している。外出も多少の制限を設けてはいるがドライブや外食、お墓参りなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を見極めテーブル席の配置を考慮している。トラブル等が発生した場合は間に入り孤立しない等に支援している。居室で過ごされるの好きな方は、見守りや声掛けを定期的に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は、状況を把握し、ご家族への電話等で連携を取っている。状況については、その都度職員には報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、その人の話されたことを記録に残し状況把握に努め、日々生活環境の改善に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネージャー、利用されていたサービス事業所等関係機関から情報収集し、本人様の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様のこれまでの生活や嗜好等の情報収集し個人を尊重しその人にあったケアや趣味の提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様ごとに担当職員がおり、何か気づいたときはユニット間や全体で話し合い、状況に応じて専門機関に相談し、その都度対応している。ご家族様へは面会時や電話、お手紙で相談、報告をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の経過記録等を通じ経過観察することで心身の管理や変化に気づく事が出来る。介護・看護連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対してその都度対応している。面会緩和にて外食やドライブなどご家族との時間を設けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のボランティアの方々にお声かけはいただいております。感染症対策を講じた上で、今後施設の行事等でお世話になりたい。感染症対策を講じた上で、外部との交流の場を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より健康管理については、2週間/1回の訪問診療で対応しご家族へ報告している。主治医と連携し、必要時専門医への医療が受けられるように支援している。主治医の看取りケアへの理解や緊急時の対応など理解を得て協力を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴介助や日常生活の中で、ご利用者様の身体的状態を観察し、きずき、ご利用者様からの訴えを看護師へ伝えたり医療ノートを作成し個々の利用者様への適切な対応、受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になってからの医療機関との連携はとれている。ホームでの生活状況を伝え、入院中も医療機関とのやりとりに努め、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームにおける医療面で出来ること、できないことの説明をしている。重度化した場合や看取りになった場合の説明もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に研修会を通して初期対応の訓練や急変時の対応を全職員が学ぶ機会を設けて実践に役立てている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災を想定した避難訓練の実施。消防器機点検を業者に依頼し何ときでも使用可能な状態にしている。災害発生時に備え食材は常に備蓄している状態である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に敬意をもって接しているが、プライバシーや言葉かけで慣れが出ている時もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者がしたいことを確認しながら決めて頂いている。着替えの衣類等もできるだけお聞きしながら選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはあるが、毎月の職員会議やカンファレンスで情報共有しその人のその日の状態、状況に合わせて過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容をはじめ、季節に合わせた服やご本人様の好みや考えを確認しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段のお食事、行事時のお食事職員手作りで提供している。行事食には季節感を表し職員も一緒に食事をしている。お手伝いは片付けのお盆拭きをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分にトロミをつける等その人に合わせている。毎食の食事量の把握し状態変化に気づけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導もありながらお一人お一人に合った口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘の予防に個々にヤクルトやヨーグルト、牛乳など乳製品を食事以外に取って頂いたりしている方もいる。ご本人様の排泄パターンを把握し、声かけをしている。その人にあつた排泄援助に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、個々に応じて毎朝麦茶や牛乳、ヤクルト、ヨーグルトを摂って頂いている。また体操をうながしたり腹部マッサージなど適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴時間は設定しているが、機械浴を導入しすべての方に入浴を楽しむことができるよう支援している。ゆず湯等季節湯を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう気をつけているが昼間休息するなど、ご本人様の状況に合わせて対応している。寒冷時は全室床暖房使用し室温調整行い呼吸器系疾患のある方などは加湿器使用して加湿に努めている。		
47		○服薬支援	服薬時はダブリチェックを行い、服薬ミスがない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時はダブルチェックを行い服薬ミスがないよう注意を払っている。薬の効能や副作用については薬局からの情報で確認を行い個人のファイルで管理している。御家族へ服薬指導報告書をお渡ししている。薬局の先生との情報交換を密に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況に合わせて洗濯物たたみや塗り絵、折り紙、カラオケ等楽しんで頂けることを取り入れながらし生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策もあり外出する機会は減った。感染状況を見ながらではあるが他科受診の際にご自宅を気にされているご利用者をご自宅までドライブがてら外出も行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルが無いようご利用者様の預り金はホームで管理しているが、ご家族様の同意のもと個人でお金を持たれる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会緩和で別室での対面面会を行っている。ご利用者の希望によりご家族への電話や手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは掲示板等、四季折々の模様替えを行い季節を感じていただいている。また、お花を飾ることでご利用者様たちの笑顔がよく見られている。安全に生活していただけるよう環境整備にも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルやリビング、ソファ等相性を考慮しテレビ鑑賞や会話等、気の合った仲間で楽しめるよう努めている。また思い思いの場所で過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には家族との写真や創作作品を飾っている。また居室内は、家具の配置を考慮し、ご本人様の馴染みのあるものを飾り安全対策もしながら落ち着ける空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の安全を確保しながら、本人様の得意なこと出来る部分を活かしたケアに努めている。		